

誰もいない暗闇の密室…
敵に敗れた波動ねじれは
自身の個性と身体の自由を
奪われ拘束されていた

身体が動かかせない…
個性もぜんぜん
いう事を聞かない…

それになんで…
なんで私に
おち…男性器がっ

また、彼女の股間には
不釣り合いなほど大きく
雄々しく脈打つ男性器が
生やされ頭を垂れていた

周囲の空気が動く度に
先端が床の床の冷たさを
感じる度にこの陰茎が
自分に生えてる事を悟る

拘束されている以上
生かされている以上
命は狙われておらず

今は生やされた男性器から
視線を外す事すらできない
屈辱的な格好で拘束されて
いるだけだ…と信じ込む

意識をしないように
努力してはいるが
彼女に生やされた陰茎は
わずかな肉体の動きや
わずかな風の動きに反応し
貪欲に快感を受け取ろうと
血を巡らせていた



不安を拭った矢先
自分の意思とは関係なく
波動が陰茎を包みこみ
優しく絞るような刺激が
与えられ始めた

やっぱり…!!
誰かに私の個性が
使われてるっ

使ってる感じが
あるのに…
なんてっ…あっ

や、やめて…っ
そんな所…っ
触らないでっ!!

あ…っ
ん…っ
あ…っ♡

それだけはしまい、と
心を怒りで満たすため
わざとらしく強く
怒りを表わしてみるが
その意思も虚しく
嬌声が漏れてしまう

刺激を快楽に変換し
脳に送り込んでくる
陰茎の力はすさまじく
無慈悲に全身の血液を
一点に集めはじめた

否が応でも全ての意識が
陰茎に集中してしまう
放尿すら経験していない
無垢な陰茎にはこれすら
激しい刺激となる

しかし自分の個性が
自分で使えない事に
恐怖と怒りが湧くが
この個性がある以上
この危機も乗り越え
られると安堵した

柔らかい肉の棒が
硬さと重さを帯び
重力に逆らい
始めるのを感じ…



血液ではち切れんばかりに
膨れ上がった海綿体は
長く太く硬く熱くなり
肉の竿を天に向けさせた

パンパンに膨れた陰茎に
言葉にできない切なさ
腹の奥に未知の疼きを
感じると肉体が射精の
準備が完了したと理解した

やだっこれっ…
私…ほ、勃起…
こんな男の人の…

陰茎に意識を奪われていたが
ふと我に返った彼女の目に
鈴口に迫る個性が見えた

そんな事するはず無い
そう思ったが
波動はねじれながら
静かに陰茎に迫りくる

痛い程に心臓が高鳴り
陰茎に血を送り続け
さらに硬くなる竿に
不安か期待か自分でも
理解できぬ感情が湧き
更に心臓を速めた

ま、待って!!
そっ…
おしゅのっ
やめて…っ!!



波動が尿道に潜り込む彼女自身の個性故なのか本来痛みを伴う行為だが彼女の尿道は波動をすんなりと受け入れた

なんでっ…!!
 こんなのおっ
 違いうっ…!!

違ふ、と言葉で否定をするが
快楽を受信するアンテナは
ねじれて動き回る波動でさえ
快楽へと変え始め
彼女は身を細かく跳ねさせた

膣に挿入した時とは違う未知の感覚が陰茎から脳へと送られ始めると拒否反応を起こし身体は強張り尿が漏れる

潤滑液が溢れ出はじめる頃
余裕が少し生まれる
でも大丈夫、まだ大丈夫、と
彼女はこの程度の苦痛なら
耐えきれると確信した

えっ!? あっ!!♡
そこっ…袋の所お♡
中で暴れないでえ!!

安堵も束の間
波動は精巢へと潜り込む
袋は水風船のように膨れ
中で蠢く波動を受け取り
力強く喰り始める

き、気持ちいい…っ
お股気持ちいいっ♡
おま…おまんこっ♡
おちんぼも…っ!!♡

その見た目とは裏腹に
未だ精通すらしていない
未熟な男性器は男を強め
精子を製造り始めると
女の部分が雄を感じとり
汁を噴き小さく絶頂した

いくっ♡いくっ!!♡
おちんぼイクっ!!♡
イク♡お汁出るっ♡
おちんぼ跳ねるう!!
これっ♡射精っ!!
射精しちゃった!!
男の子のヤツっ!!
いやっ!!助けてっ

膣の絶頂を引き金に
陰茎も絶頂し脈打った
まだ出せるものは無く
透明な力ウパーが漏れ
はたから見れば失禁の
ような絶頂であった

誰か…ごめんなさい
ごめんなさい!!
おちんぼ止めてっ!!
じゃないと…っ
私っ…男の子に
なっちゃう…っ!!

膣から愛液を搾り出し
陰茎で絶頂を繰り返す
快楽ですり減る自我を
守るため暗闇に独り
命乞いにも似た懇願を
叫び続ける彼女だが…

精子が精囊に満たされ
精液となり膨れ上がる
それと同時に溜まる波動
身体の内奥に溜まるモノ
その濁りと熱を感じとり
その時が来てしまった
事を己が肉体で理解した

で、でますっ!!イク
出ちゃうんですっ!!
でちゃイクっまって
イクイクっごめっとなっ
イクっイクイクイク…

だっ!誰かっ…!!
聞いてるよねっ!?
ごめんなさい!!
許してください!!

おちんぼ

おちんぼ



イグっ♡

ん出るっ♡でりゅ♡
おちんぽ出るっ!!♡
射精っ♡ホントのっ♡
ホントの射精えっ♡
イグっ♡射精イグっ♡
イグうううっ!!♡

でっるまだ射精るっ♡
きもちーの射精るっ♡
ねじれ精子きもちっ♡
精子でおチンポおっ♡
もったきもちくなる!!

大きく身体を震わせると
排泄を思わせる力強さで
高粘度の精液をひり射精し
潮を床に激しく叩きつけた

精液は彼女の個性を帯びて
ねじれながら尿道を進む
射精の快楽を糧に尿道を犯し
射精する事でまた絶頂を迎え
製造られた精液を押し出す

待つで!!射精てるっ!!
私の個性っ!!出てっ♡
無くなっで♡イグ!!♡
個性射精る...排泄る!!

彼女はここで気付いてしまう
身体から抜け出ているモノは
精液だけでなく自身の能力...
個性そのものだという事に

お...♡んおおっ!!♡
射精るのっ排泄すのっ
ぎもちいいいい!!♡
個性射精すのお...っ♡
ほお♡ほおおおっ♡

常人の許容量を遥かに超える
快楽信号に脳細胞は焼き千切れ
個性と自我を失っていく恐怖は
精液の波に洗い流されていった

排尿時の身震いの如く
身体を大きく震わせると
尿道に僅かに残る精液と
潮を全て排泄しきった

出せる物は出し切ったが
個性は僅かに残っていた
すり減った僅かな自我は
その事実によって未だに
保たれているのだった

これ以上出したら…
戻れなくなっちゃう
もし学校に戻れても…
ヒーローじゃ…
私じゃなくなっちゃう

学校に戻ったとして
この身体、搾りカスの個性
今までのように活動など
できるはずがないと
理解していたが、それでも
虚空に向かい懇願する

ゆ…るひて…っ
くだひゃい…っ
もう…でません
出せません…っ

なんでもしますっ
だから…だれか…
聞いてる人…
お、お願いします…
許して…下さい…

お、おまんこ…マンコ
使っていいですっ…
使ってください…!!
助けてください!!

その彼女の切なる願いを
聞く者はいないのか
無慈悲にも最期の個性を
搾り取らんと波動が
亀頭へとにじり寄る

むわぁ〜

だからっ波動…!!
もうやめてください
お願いしますっ!!
お願いしますっ!!

ちんぽおっ!! 違うっ♡
さつきと違うとマコっ!!
侵入ってキてるっ!!

おチンポっ♥奥っ!!♥
おチンポの奥のお!!♥
あ!!イク♥イって…
イク!!イっでる!!♥♥
チンポの根っこイク!!

ダメっ♡射精すっ♡
チンポ射精する!!♡
個性なんて排泄す!!
きもちいのがいいっ
きもちいのするっ!!

だからっ♡イッグう♡
もっと!!もっとお♡
もっとおチンポイキっ♡
チンポイキたいっ!!♡
いっく♡いっくいっく♡

彼女の浅ましくも
下卑た言葉とは裏腹に
残った個性は着実に
精液に溶け出していき
全てを出しきる最後の
射精を待ただけだった

もういいっ♡射精!!♡
射精がいい!!♡いぎゅ
さっきの♡射精♡♡
射精が一番♡イッグう
ぎもっぢいからっ!!♡

ヒーロー辞めますっ!!
射精したいからイグっ
個性排泄しきってっ♥
いっぐ♥チンポイグッ
パンパン金玉スッキリ
射精してっイっぎゅう
無個性チンポ女にいつ
なっイグっイグイグイ
イグイグイグイグイグ

イグニッション

精子!!射精いいっ!!
射精るっ射精るううっ
精子にオシッコの穴
削られてっ犯されてっ

おチンポっイグっ!!
イク♥精子でイグ!!
射精でチンポイグ!!
チンポチンポチンポ
チンポぎもちいい

彼女の最後の個性を纏い
捻じれて収束した精液は
槍のように鋭く放たれ
尿道を削り取るように
最後の理性も削りきった

絶頂し全身の筋肉が強張り潮か小便かもわからぬ生臭い体液を力強く噴出し淫猥な言葉を叫びながら彼女は最後の時を楽しんだ

前立腺つぎゆくなって
金玉ギチギチ絞られて
出るっ射精る排泄るっ
ぜんぶ射精てイクう!!
チンポありがとうっ♡
生やしてくれてっ!!♡
ありがとうございますっ
女なのに射精させて頂き
ありがとうございます!!

個性と同化した精液を全て排泄し切るまで射精は続き肺の中の空気を出し切り酸欠の中、止まない絶頂は彼女の思考を完全に濁らせ捻じれ白濁した意識の中に波動^うねじれは消えていった

射精射精しやせい!!
おチンポ射精い!!
ビチビチ精子射精!!
おチンポおおおお

へ♥へ♥♥えへ♥
チンポ♥おチンポです
チンポしてくださいっ
誰か♥♥またしてっ♥
チンポして♥チンポ♥

全ての個性出し切り
波動の拘束も無くなり
抜け殻となった彼女は
誰もいぬ暗闇へと
娼婦のように振舞う

おマンコしていいからっ
おチンポしてください♥
オシッコの穴犯して
射精させてくださいっ♥

チンポっ♥チンポっ♥
無個性おチンポ女に
射精させてください♥

スーツを白濁に染め
雄の臭いをまき散らし
虚空に腰を振り続ける
その姿はかつての彼女
からは想像できぬほど
淫らであった

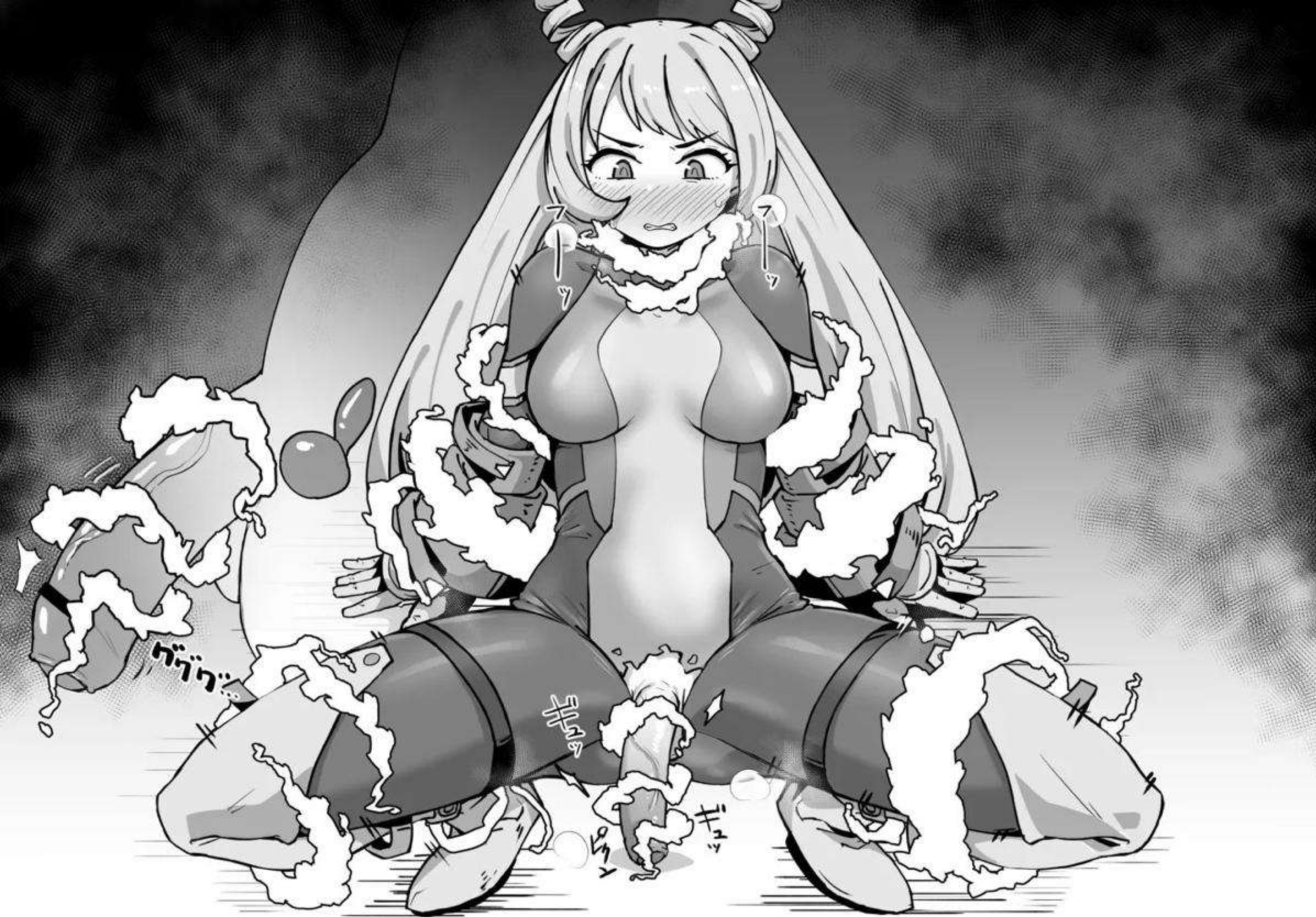
己の全てをだす感覚！
それはもう味わえない
少しでも似た感覚を
得ようとしているのか
尿道内の精子を放り
膀胱から尿を排泄し
とても人間とは思えぬ
醜態を晒していた

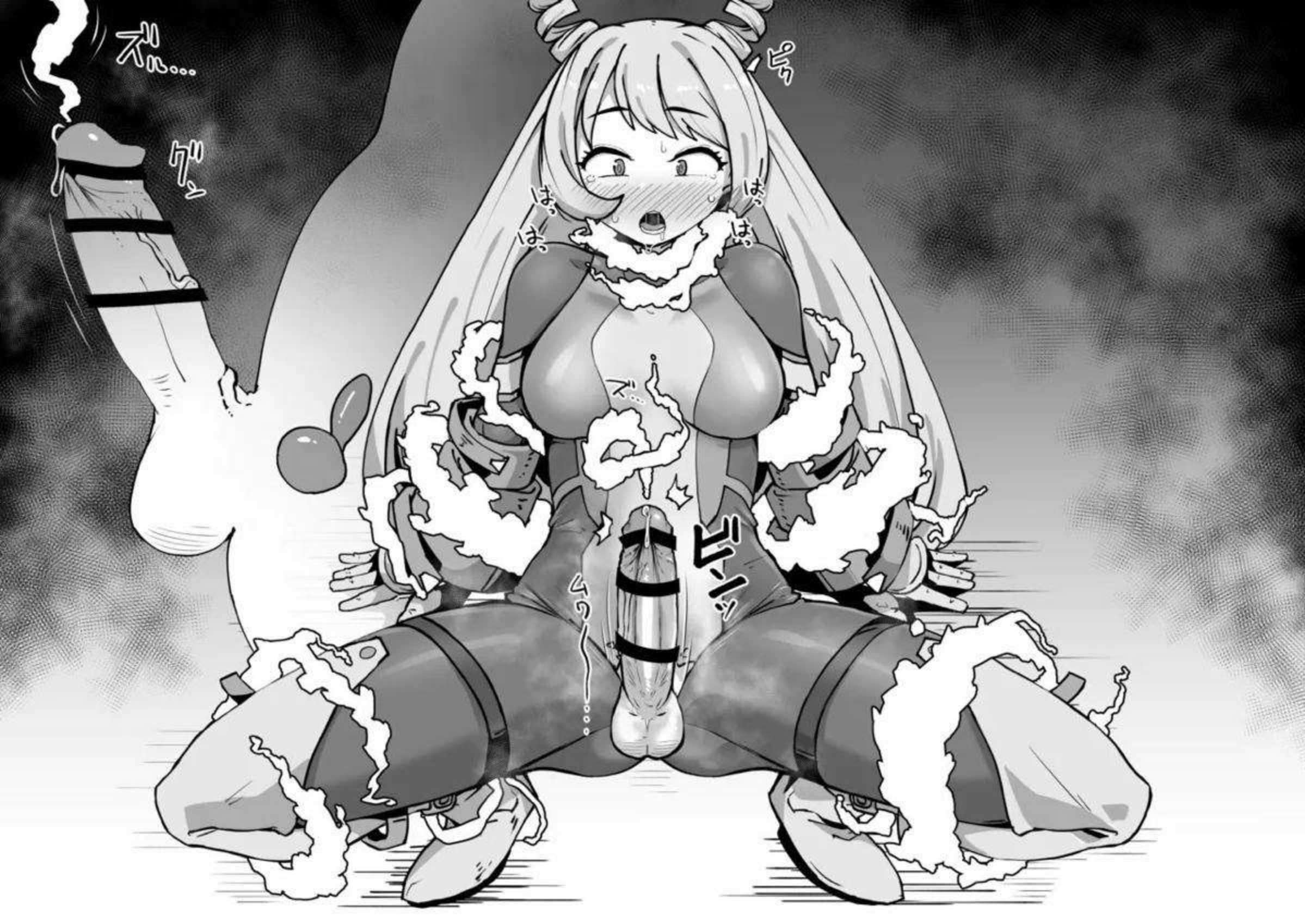
無個性無料チンポです♥
お願いしま〜す♥えへっ♥
おチンポ付き無料マンコ♥
えへっ♥えへへへえっ♥

彼女はどのようなのか
例え救出されたとして
既にねじれとしては
終わっている――

ちゅぽぽぽぽ















ぞくぞく

ぞくぞく

はは

はは

きんきん

きんきん

むわぁ〜

はは

はは

はは

ぽと

ぞくぞく





